

対抗的ヘゲモニーとしての障害者運動

——スウェーデンの障害者運動を事例に——

中部学院大学 福地潮人

1 目的

本報告の目的は、スウェーデンの障害者運動を事例に、その政府との関係と市民社会における役割を明らかにした上で、グラムシ主義の視点から、そのガバナンス上の機能を確認することを目的とする。障害者運動、なかでも本報告が取り上げるナショナル・レベルのそれに関しては長らく、物質的資源配分と政治的権利回復を訴求し、物質主義的価値観に支えられた「古い運動」と見なされてきた（例えば、Shakespeare [1993]）。しかしながら近年、障害者運動の「新しい社会運動」（NSM）としての側面について指摘する論考も現れている。

2 方法

本報告は、その様な近年の NSM 論やグラムシの議論を援用しながら、スウェーデンの障害者運動の特性とそのガバナンス上の役割について明らかにする。対象となるのは、スウェーデン最大の障害者団体であり、同国の障害者運動のナショナル・センターでもある「機能権スウェーデン」（Funktionsrätt Svarige: FRS）である。同団体の国家との関係および市民社会における位置づけについて分析した上で、グラムシ主義の視点から同団体のガバナンス上の役割と意義について述べる。

3 結果

本研究の結果、明らかになったのは FRS の特色ある①政府との関係と、②市民社会との関係である。まず①については、同団体の予算の 9 割が政府補助金と AAF（相続基金財団）を通して外部から獲得した競争的資金で占められているのに対し、41 に上る傘下団体からの上納金である会費収入はわずか 8%程度を占めるに過ぎない。この点で同団体は、まさに政府依存型の組織であると言える。ここからすれば、政府との距離感に疑問がわくのも当然である。しかしながら同団体は創設以来、同国政府の障害者政策に関して様々な提言を行い続けてきた一方で、近年では LSS サービスの後退に警鐘を鳴らすなど、一貫して厳しい監視の目を光らせてもいる。

次に②については 2017 年 5 月の名称変更典型的に表れている。同団体は旧呼称であった HSO(Handikappförbundens Samarbetsorgan)から、現在の名称への変更を行っている。同団体幹部のクレインによると、現呼称に含まれる「機能権」という言葉はスウェーデン語には存在せず、同国社会省の Termbank にも登録されていない、全く新しい言葉である。名称変更の理由には、同団体を構成する傘下組織の多くを患者団体が占めていることから、利益団体としての活動を行う際に齟齬が生じていることなどが挙げられてもいる(Klein 2016)。しかしながら他方で、FRS は名称変更を機に造語を通して、スウェーデンの市民社会に一石を投じることを狙ってもいる。

4 結論

FRS の事例からは、国家からの財政的支援を全面的に受けつつも、そのメタ・ガバナンスに終始目を光らせながら、障害者のセルフ・アドボカシーを強力に進めていこうとする同団体の姿が読み取れる。同時に、造語を通して、資源配分や政治権力の訴求に留まらない、反差別文化と脱物質的価値観を創造してもいる。この点でまさに、市民社会の脱政治社会化を狙う対抗的ヘゲモニーなのである。

[参考文献]

Hoare, Q. and G. N. Smith. [eds.] (1971=2014) *Selections from the Prison Notebooks of Antonio Gramsci*, International Publishers: NY.

Klein, M. (2016) Begreppet "Funktionsrätt"- analys av intressepolitiska möjligheter med lanseringen av ett nytt begrepp i svenska språket, HSO.

Shakespeare, T. (1993) Disabled people's self-organisation: a new social movement?, *Disability, Handicap & Society*, 8(3), pp. 249-264.